



アレマ隊員インタビュー

(平成26年度)



目次

第13回	う～ママさん：「う～ちゃんズ」	1
第14回	吉田 建樹さん：サッポロビール株式会社 東北支部	3
第15回	千葉 大貴さん：環境サークル「たんぽぽ」(東北工業大学ISOサポーター)	5
第16回	白津 智規さん：一番町四丁目商店街振興組合	7

「アレマ」ってな～に？

「アレマ」とは、ポイ捨て行為に驚いて思わず言ってしまう言葉。

仙台市では、ポイ捨てを見て「アレマ～」と驚き、ごみ拾いをするによって

「ポイ捨て反対！」を表明する人たちのことを「アレマ隊」と呼んでいます。

「アレマ活動」は、「**拾う**」「**数える**」「**考える**」、身近な場所で、いつでも、だれでもできる、ごみ拾い活動なのです。

✦ アレマ隊 3つの誓い ✦

1. わたしたちは、「ポイ捨て」を「見て見ぬふり」は決してしません。「アレマ！」と驚きます。
2. わたしたちは、家族や恋人や友人に決して「ポイ捨て」させません。
3. わたしたちは、アレマ隊の名誉にかけて、ごみの散乱のない快適なまちづくりを進めることを誓います。



娘と2人のアレマ活動、気軽に出来るまちづくり

仙台市では、春と秋の一定期間の間に、アレマ隊の皆さまに自由にごみ拾いをしていただいたり、ポイ捨ての解決策を考えていただき、その結果を集計して皆さまにお知らせする「アレマキャンペーン」を毎年実施しています。今回は、アレマキャンペーン期間中「最も実施回数が多かった団体」として仙台市ホームページ上でたびたび紹介されている「う～ちゃんズ」のう～ママさんに、アレマ活動を始めたきっかけや、ごみ拾いスタイルなどについて聞いてみました。



ニックネーム

「う～ちゃんズ」う～ママさん

プロフィール

宮城県出身。
趣味はスポーツ観戦。
ニックネームの由来はうさぎが好きなおことから。

「アレマ」という言葉にひかれて、気軽に参加。

聞き手：アレマ活動を始めたきっかけは、どんなことだったのですか。

う～ママさん：いまから5年ほど前、太白区役所に置いてあったチラシの「アレマ」という言葉を目にしたのがきっかけです。「アレマって何だろう」と(笑)。「アレマ～、こんな所にごみが」と思ったら、そのごみを拾うだけでお役に立てるなら…と、気軽に始めたんです。ポイ捨てごみがそのままになっているのは、以前から気になっていましたし、きれいなまちは住んでいて気持ちがいいですね。

聞き手：実際に参加してみた感想はいかがですか？娘さんと一緒に活動していると伺いました。

う～ママさん：アレマ活動は決まった日時にみんなで集まって行うイベントではなく、気になった時、気が付いた時にできることが、参加しやすく気に入っています。娘とは、買い物でも散歩でも連れ立って出かけることが多いので、一緒にごみを拾うようになったのは、ごく自然なことなんです。

聞き手：どんなときに「やりがい」を感じますか。

う～ママさん：私が歩いたところがきれいになり、次にそこを通ったとき、ポイ捨てごみがないと「きれいにしている人がいるのだから、ポイ捨てはやめよう」と、思ってくれる人がいるのかも…と感じたときです。それから、先日ウォーキングをしながら、アレマの活動をしている人を見かけたんですよ！「仲間が増えてきている」と思い、うれしくなりました。

聞き手：アレマ仲間、増殖中！これはうれしいことですが、一方で「大変だな」と思うことはありますか。

う～ママさん：始めたころは「この人、何をしているの？」という目で見られるのが恥ずかしかったし、いまもたまに感じることはあります。でも、今年の春のアレマ隊キャンペーンに参加して、「アレマ隊・仙台市」と記された腕章をいただきましたので、これを腕に巻いて活動しています。周囲の人にも私たちが何をやっているのかが分かりやすくなったと思うので、恥ずかしさは大分軽減されました。

聞き手：なるほど。拾い方で工夫されていることはありますか？

う～ママさん：買い物に行くとき、行きにごみを拾ってしまうと、お店にごみを持って入ることになってしまうので、落ちている場所を覚えて、帰りに拾うようにしています。



個人や少人数では周りの目が気になる…というお悩みは、う～ママさんに限らずよくある相談のひとつです。「ボランティア中に身に付けられるグッズがあればよいのではないか」という市民のアイデアにより、アレマ隊腕章ができました。少人数で心細い方、もっと目立ちたいと考えている方はどうぞご相談ください。

「さあ、私の出番!」と、前向きに活動しています。

聞き手：アレマ活動をしていて、何か気づいたことはありますか。

う～ママさん：先日、娘が「高架橋の下に、けっこうポイ捨てごみがあるんだよ」というので早速行ってみたところ、想像以上にごみが散乱していました。まだまだ見落としていところがあるなと思いました。それから、最近はタバコのポイ捨てが減ってきているような気がします。歩きたばこ等の喫煙者のマナーや、受動喫煙の問題がクローズアップされているからでしょうか。

聞き手：その影響は、大きいかもしれませんね。では今後、どのように活動を続けていこうと思っていますか。

う～ママさん：これまで通り、キャンペーン期間でなくても、いつでもどこでも、気がついたときにごみを拾うというスタイルは変わらないと思います。スーパーやコンビニの敷地内はきれいでも、一步敷地を出ると菓子袋などが落ちていることが少なくありません。そんなときは「私の出番ね!」と前向きにとらえて、これからもごみを拾っていきたいと思います。私たちが住む仙台は「杜の都」といわれているので、ごみを拾うことで、美しい緑がより一層、際立つようになればいいなと思っています。

う～ちゃんズのごみ拾いスタイル! アレマ活動の「七つ道具」を常備!散歩のときは、それらを持って出かけます。

う～ちゃんズは、散歩や買い物のときだけでなく、気づいたときにいつでもアレマ活動を行っています。そのコースは、遠いところでも往復1時間圏内。散歩のときはアレマ隊員の「七つ道具」を備えたバッグを斜めがけにして出かけます。



散歩用バッグに軍手、ティッシュペーパー、ビニール袋、地域清掃ごみ袋、レインコート、アレマ隊員証、アレマ隊員腕章の「七つ道具」を常備。



う～ママさんが、アレマ活動を始めるきっかけになった当時のチラシ。

秋のアレマキャンペーンが今年も実施されます!

今回取材した「う～ちゃんズ」がいつも参加している秋のアレマキャンペーンが今年も実施されます。今年度は10/3(金)～10/19(日)に秋のキャンペーンを実施予定!

申込者には、ごみ袋、活動マニュアル、活動報告書(アレマレポート)、小学生以下対象のミニ缶バッジなど、参加キットをお送りします。

詳しくは、9月に仙台市ホームページ(トップページ> 住みよい街に> まち美化、環境保全> まち美化活動> アレマキャンペーン(全市一斉「ポイ捨てごみ」調査・清掃キャンペーン))等でお知らせいたします。

みなさまのご参加をお待ちしております!



小学生以下の方はミニ缶バッジつき



参加キットをお送りします。



地域に根ざした食品会社として、少しでもまちの役に立ちたいと思っています。

青葉通に面したビルに事務所を構える、サッポロビール株式会社東北本部。月に1回、社員の皆さんが集まる月曜日の朝に、アレマ活動を行っています。ポイ捨てごみの中でも、ビールの空き缶は特に気を付けて見つけるのだから。そんなアレマ活動のまとめ役を担う吉田さんと佐藤さんに、活動の様子についてお話を聞いてみました。

清掃後のよりきれいなまちを見るのは気持ちがいいです。

聞き手：アレマ活動を始めたきっかけは、どんなことだったのですか。

吉田さん：以前から、サッポロビール仙台工場と共同で、ビーチクリーンアップ活動などを行っていましたが、東北本部として清掃活動を本格的に始めたのは平成20年3月からです。この時期に「エコアクション21」という、事業者が行う環境活動の指標となる制度の認証を得たのがきっかけになりました。私はその当時東北本部にはいませんでしたが、「地元で根ざした食品会社として、まちのためにできることを少しでもやりたい」という思いから、アレマ活動に加わったと聞いています。

聞き手：いつ、どのように行っているのですか。

吉田さん：月に一回、月曜日の朝8時から同じビルに入っているグループ会社の人たちと一緒に、50人くらいで事務所周辺をはじめとした仙台市内中心部に落ちているごみを拾っています。仕事の都合に合わせて、7時半から始める社員もおりますので、活動のまとめ役である私たち総務部も、7時には出社して、火ばさみや軍手、地域清掃ごみ袋、地図を用意してスタンバイしているんですよ。

聞き手：「地図」を使って、ごみを拾う場所を確認するのですか。

吉田さん：そうです。例えば、週末にイベントがあった次の月曜日なら、会場となった場所やその周辺のごみを集中的に拾うとか、マンネリ化しないように、いつも行かないところに行ってみようとか、「テーマ」というほどではありませんが、地図を見ながら「今日はここを重点的にやりましょう」といったことを確認するために使っています。

聞き手：朝早くから準備をするのは大変ですね。

吉田さん：いえいえ。みんなでごみを拾ったところが、すっきりときれいになっているのを見るのは、とても気持ちがいいですし、それがやりがいにつながっています。



一見、きれいな通りでも、人目につかないところにポイ捨てごみが…。



活動終了後は、ごみが多い場所などについての情報交換を行い、次の活動に活かします。



総務部 部長代理

吉田 建樹さん

プロフィール (写真 左)
埼玉県出身。

趣味は料理、合唱、カラオケ、ゴルフ、ピアノなど。

総務部 課長代理

佐藤 幸一郎さん

プロフィール (写真 右)
神奈川県出身。

趣味はサッカー。

「ポイ捨てしづらい」と思ってもらえるように。

聞き手：アレマ活動を通して、気づいたことなどはありますか。

吉田さん：やはり、人の目が届かない場所にポイ捨てごみが多いようです。例えば、駐車場に設置されている自動販売機の陰などには、特に空き缶やタバコの吸い殻が多いですね。私たちはビールメーカーですから、ポイ捨てされたビールの空き缶を率先して拾っています。私たちがごみを拾っている姿、そしてきれいになったまちを見てもらい、「きれいなところには、ポイ捨てしづらいな」と思ってもらえればうれしいですね。

聞き手：吉田さんが行ってきたアレマ活動のまとめ役を、今後は佐藤さんが引き継がれると伺いましたが。

佐藤さん：そうなんです。私は9月に東京の恵比寿にある本社から仙台に転勤してきたばかりなのですが、このまちを歩いてみて、緑も多く、道路もきちんと整備されていて、本当にきれいだなと思いました。このきれいな街並みが、ポイ捨てごみでくすんでしまわないように、この役割をしっかり受け継ぎたいと思っています。

実は本社でも毎月一回、グループ全体で会社周辺の清掃活動を行ってきました。みんなで取り組むと「よし、きれいにするぞ」というムードも高まるんですね。そのいい雰囲気を保ちながら、グループ全体で地域貢献、社会貢献に取り組んでいきたいと思っています。

【サッポロビール(株)のごみ拾いスタイル】

おそろいのユニフォームに身を包み、やる気をアップしています。

ユニフォームである社名が入ったポロシャツやウインドブレーカーを身につけ、アレマ活動を行っています。コースは、北は国分町の繁華街を通過して定禅寺通まで、南は青葉通をはさんで文化横丁や壱弍参(いろは)横丁など、飲食店が多く立ち並ぶエリアを中心にしたコースを約30分かけてまわります。また、「何のごみが多かったか」や「アレマ活動を行った感想」などをまとめたアレマレポートを活動のたびに市に提出しています。





工夫しながら、「楽しむこと」をモットーに活動しています。

東北工業大学の環境サークル「たんぽぽ」は、平成21年度からまち美化サポーターとして八木山キャンパス周辺地域で活動したり、他大学と連携してさまざまな環境に関するイベントを行うなど、活発な活動を展開しています。そんな「たんぽぽ」の代表である千葉さんに、その内容を伺いました。

仲間とともに様々な取り組みを。

聞き手：環境サークル「たんぽぽ」では、おもにどのような活動を行っているのですか。

千葉さん：2008年に東北工業大学がISO 14001の認証を受けたのを機に組織された「ISO学生サポーター」というものがありまして、そこから活動の場をもっと広げようということで、2012年4月に誕生したのが「たんぽぽ」です。現在、約60名のメンバーが在籍しており、大学周辺地域のごみ拾いを行ったり、ペットボトルキャップの分別回収や使っていない教室の電気を消す節電見回りなどを行っています。また、大学祭でエコステーションを運営したり、活動の場を学外に広げて環境活動に関わっている他大学や団体と協働で、カーボン・オフセット普及活動や自然再生活動などに取り組んでいます。

聞き手：大学周辺地域のごみ拾いは、いつ、どのように行っているのですか。

千葉さん：毎月、第2土曜日に八木山キャンパス周辺のごみを1時間くらいかけて拾っています。ただ第2土曜日というのは流動的で、実施の2〜3週間前に気軽に連絡がとれる携帯電話のアプリケーションを利用して都合がつく日を聞くなどして、なるべく多くの人が集まれる日に実施しています。当日はジャンケンでグループ分けをして、校門を左右二手に分かれて各自活動を始める…という感じです。

聞き手：学生さんらしいチームワークの良さを感じますね。

千葉さん：何かを始めようと思った時に、即興でいろいろなことを決められるのは、普段からみんながよく話をしているので、お互いのことがわかっている仲間同士だからだと思います。

聞き手：アレマ活動を通して、何か気づいたことなどはありますか。

千葉さん：やはり、人目につかないところにポイ捨てされていることが多いですね。ごみ拾いの活動を行っているのは僕たちだけではありませんので、みんなが活動を続けることがポイ捨ての抑止力になり、ひいては「きれいなまち」の実現につながるのかなと思います。

聞き手：この活動を続けてきて良かったと思うのは、どんなときですか。

千葉さん：地域の方々に、「ありがとう」といっていただけるのが一番の励みです。地道にコツコツやるのが大切なことはわかっていますが、活動する姿を見てもらって、声をかけてもらえるとやはりうれしいです。

楽しみながら活動することで、周囲も笑顔に。

聞き手：「たんぽぽ」の活動の目標や、モットーを教えてください。

千葉さん：目標は「環境活動への意識を高める」こと。モットーは「楽しく活動すること」です。僕たちが楽しみながら活動することで、環境活動に興味をもってくれる人が出てくるかもしれません。環境活動というごみを拾うとか、分別するとか活動そのものは地味なので、多人数で、しかも楽しく活動することで注目度を高めて、校内の雰囲気も良くしていければと思っています。



東北工業大学
工学部環境エネルギー学科
環境サークル「たんぽぽ」代表

千葉 大貴さん

プロフィール

岩手県一関市出身。
趣味は音楽鑑賞、ランニング。

聞き手：いま、新しい代表への引き継ぎを行っているそうですが、どんなサークルにしてほしいと思っていますか。

千葉さん：次のリーダーには、「楽しいと思う活動をやって」とだけ伝えました。自分たちが楽しそうにしていると、それを見た人たちもみんな笑顔になるんですね。ただ、サークルの活動を楽しむためには、自分たちで考えて、動いて、工夫を凝らすといった努力も必要です。後輩たちには、その過程で他大学や行政の人たちとも交流し、人とのつながりを広げていってもらえればいいと思います。僕自身、積極的にいろいろな人に会いに行ったことが自分の成長にもつながったと思いますし、財産になりました。

【環境サークル「たんぽぽ」(東北工業大学ISOサポーター)のごみ拾いスタイル】 新入生の加入も増え、活動の幅もより広がっています。

ごみ袋をもち、軍手をはめて、大学から約1キロ圏内を1時間ほどかけて回ります。服装は自由ですが、今後は先輩がデザインしたサークルのキャラクター「ぼぼたん」をあしらったユニフォームを身につけて、ごみ拾いをしようと考えているそう。また、こういったキャラクターを作成したのも「環境」や「ISO」という言葉から硬く見られがちなイメージを、親しみやすいものにしようという工夫だとか。今年度は新入生の加入も増え、ますます活動の範囲を広げている「たんぽぽ」です。



「たんぽぽ」のユニフォーム。先輩がデザインした「ぼぼたん」が目印。



学外イベント「ガチスカ!」にも参加

「ガチスカ!」とは、「ガチ(本気)で楽しいスカベンジ(scavenge=ごみ拾い活動)」の略称であり、東京、神奈川、宮城、大阪、鹿児島県の20以上の大学生によって構成される団体です。「ガチスカ!」ではごみ拾いにゲーム性を持たせ、楽しみながら実施できる工夫がちりばめられた環境活動イベントを行っており、「たんぽぽ」も率先して活動に参加しています。



活動の様子。世代を超えて、ごみ拾いに取り組んでいます。



「たんぽぽ」と他大学のみなさんの力でこれだけのごみが集まりました。



「誰もが気持ちよく、お買い物を楽しめる商店街」を目指して活動しています。

定禅寺通から広瀬通までのエリアに立ち並ぶ商店で構成される一番町四丁目商店街振興組合は、この4月に設立62周年を迎える歴史のある組織です。たくさんの買い物客で賑わうこの商店街では、月に1回の清掃活動を続けています。その様子を同振興組合の白津さんに伺いました。

清掃活動は「安全で安心な商店街」の環境を維持する活動のひとつ。

聞き手：まずは商店街の清掃活動の内容を教えてください。

白津さん：商店街に来てくださるお客さまが、いつでも気持ち良く楽しい時間を過ごしていただけるように、毎日の路上清掃は清掃会社の方々をお願いしています。それとは別に、毎月1回、主に第2水曜日の午後6時から、一番町四丁目と国分町一帯の清掃活動に、一番町四丁目商店街振興組合からも参加を続けています。



一番町四丁目商店街振興組合
常務理事 環境対策委員長

白津 智規さん

プロフィール

宮城県仙台市出身。
趣味は料理。

聞き手：その月1回の清掃活動では、こういった活動をされているのですか？

白津さん：この活動は「国分町クリーンアップ作戦・夜間パトロール」といまして、私たち一番町四丁目商店街振興組合や国分町の各町内会、防犯組合、国分町のお店などで構成される「国分町地区安全安心街づくり推進協議会」により実施しています。毎月第2水曜日の午後6時に、国分町交番隣にある元鍛冶丁公園に集合し、清掃用具等を持って各自ごみ拾いを行いながら、認められていない看板の設置や、迷惑な客引き行為が行われていないかなどのパトロールを行っているんです。というのも、そもそもこの「国分町地区安全安心街づくり推進協議会」という団体は、その昔、青少年に悪影響を与えるチラシやビラが、国分町のあちこちにたくさん貼られたり、配られたりしたことがありまして、それらを排除しようという目的で組織されたものなのです。その後、条例が制定されるなどしたことから、そういったチラシは国分町から一掃されたのですが、せっかく一緒に活動してきたのだから、解散するのはもったいないということになり、ごみ拾いをしながら地域の安全・安心を守るための活動をするようになりました。私たち商店街振興組合のメンバーも毎回参加していますが、自分たちの商店街を中心に1時間くらいの時間をかけてひとまわりしています。

聞き手：なるほど。だから「パトロール」なわけですね。では、商店街で、ポイ捨てされやすい場所はどんなところですか。

白津さん：商店街には、休憩できるベンチや椅子を設置しているのですが、そこに飲食したあとのごみが置きっ放しになっていることがあります。日々の清掃活動の際にはもちろん、「夜パト」を行う際にも、放置されたごみを拾い集めるようにしています。

聞き手：こちらの商店街では仙台七夕まつりをはじめ、さまざまなイベントの会場になることが多いと思うのですが、そういったイベントの時は人も多く集まり、ポイ捨てごみの清掃が大変になるものでしょうか。

白津さん：いえ、それがイベント終了後にはすべてきれいになっているのです。主催者の方々やボランティアの方々がごみをきちんと分別して集め、片付けてくださっているのです。商店街としては自分たちの商売と、お客さまをおもてなしすることに集中できるのです。とてもありがたいですし、商店街の環境を悪くしないように配慮してくださる皆さんに、常々感謝しています。

「障害のある方の社会参加の一助になれば」という思いで実施します。

聞き手：では、今後の活動に対する抱負をお聞かせください。

白津さん：私は15、6年前から交通秩序の保持と交通事故の防止のお手伝いをする、仙台市の交通指導隊員として月に4回ほど朝の通勤・通学の時間に定禅寺通と晩翠通の交差点に立っています。正直に申しますと、はじめは、信号無視や横断歩道を渡らないなど、小さな交通違反をする人に対して「もしも事故が起きてても規則を守らない方の責任だろう。私が交通指導隊員として交差点に立つことで何が変わるのだろうか」と思っていました。しかし、何年か続けていくうちに、徐々に「見守る目」とか「見守る人の存在」というものはとても大切なのではないか、と思うようになってきました。そして、「見守る人の存在」を感じるようになれば、少しでも「ちゃんとしよう」と思い信号無視や横断歩道を渡らないなどの小さな交通違反が少なくなるのではないかと。小さな違反が少なくなれば、大きな違反ひいては犯罪が少なくなるのではないかと思うようになりました。

ポイ捨ても同じことが言えるのではないのでしょうか。私たちがごみ拾いを続けることで、その姿を見た人が少しでも「ごみのポイ捨てはやめよう」と思っただけならば、ポイ捨てをする人は減っていくかもしれません。そして、さまざまなマナー違反が少なくなれば、大きな違反ひいては犯罪が少なくなって過ごしやすい街になっていけばいいなと思っています。大震災の後の事です、いつものように交差点に立っていると、不思議にも交通違反をする人がほとんどなく皆さん信号を守って整然と歩いていました。皆さんが「ちゃんとしよう」と感じていたからではないかと思っています。大げさかもしれませんが、少しでも「この時の気持ちを忘れないでほしい」とそんなことを考えながら活動を続け、これからも継続していきたいと思っています。



集合場所である国分町の元鍛冶丁公園に集合する参加者の皆さん



ごみ袋、火ばさみなどを手にした、パトロール及びごみ拾いの様子。



毎回、40人から50人が参加して行われる「国分町クリーンアップ作戦・夜間パトロール」の様子

聞き手：3月14日から5日間にわたって開催される「国連防災世界会議」の前日に、障害のある方々と一緒に「おもてなしの清掃」を実施されると伺いました。どのような経緯で、実施することになったのですか。

白津さん：3年ほど前に、私たちの商店街をどなたにとっても過ごやすく、楽しんでいただける環境にしたいという思いで、障害のある方々に「ご意見をお聞かせください」とお声がけしたことがありました。このときに知り合った社会福祉法人仙台ありのまま舎※1の方と、「また機会があれば、一緒に活動しましょう」と約束していました。それからずいぶん時間が経ってしまったのですが、「国連防災世界会議」を前に、仙台市が「都の都仙台おもてなしクリーンキャンペーン」※2を行うという話を聞いたものですから、これは良い機会だと思ひまして、一番町四丁目商店街振興組合の主催で、ありのまま舎の方などの協力を得て「おもてなしの清掃」を実施することになりました。これと合わせて、仙台なびっくで最新の車イスなど、福祉用具の展示も行うことになっています。このような清掃活動や福祉用具のご紹介などを通して、誰もが気軽に来て、買い物を楽しめる商店街にしていきたいと思ひますし、障害のある方が街に出て活動する機会を増やす一助になればという思いで実施します。

※1 社会福祉法人仙台ありのまま舎…難病患者・重い障害のある方が、「ひとりの人間として尊重される社会作り」を目標に、啓蒙活動を行っている団体。

※2 「都の都仙台おもてなしクリーンキャンペーン」…国連防災世界会議に向けて仙台に来訪する方々を歓迎するために、仙台市が行っている美化啓発強化期間。

なお、「都の都仙台おもてなしクリーンキャンペーン」及び一番町四丁目商店街振興組合主催の「おもてなしの清掃イベント」は既に終了しています。また、企画の内容等は平成27年2月20日時点のものです。